

環境活動の指標と目標

オカムラグループでは、オカムラグループ環境方針に基づき目指すべき方向を示した環境長期ビジョンを10年ごとに策定するとともに、3年ごとに環境中期計画を策定して各年度の目標を明確にし、計画的に環境活動を推進することにより環境負荷を着実に低減しています。

環境長期ビジョン 「GREEN WAVE 2030」

「GREEN WAVE 2030」においては、温室効果ガス排出量削減などの気候変動への対応や、水資源使用量の削減、生産プロセスにおける生産系廃棄物の排出量原単位削減などについて定量目標を設定しています。製品の開発や販売段階における環境負荷低減などの定性目標を設定し、2030年度の達成に向け活動を推進しています。

環境中期計画、環境目標

環境長期ビジョン「GREEN WAVE 2030」の目標達成に向け、3年ごとに環境中期計画を策定してマイルストーンとしています。環境中期計画においては単年度ごとに目標の達成状況の評価を行い、以降の取り組みに反映しています。

環境長期ビジョン「GREEN WAVE 2030」の主な内容

項目	2030年度目標
1. 地球温暖化防止対策	温室効果ガス排出量50%削減(2020年度比)、エネルギー生産性10%原単位向上(2020年度比)
2. 省資源、廃棄物削減	水資源使用量10%原単位削減(2020年度比)、生産系廃棄物9%原単位削減(2020年度比)
3. 特定化学物質の削減	PRTR法対象物質10%原単位削減(2020年度比)
4. 製品開発での環境配慮推進	各種環境ラベルの対象拡大
5. 社会に拡げる環境活動	ACORN活動の推進と環境教育での社会貢献
6. お客様へ製品・空間の提案	環境配慮製品販売比率と環境空間提案率向上

2022年度の環境目標・活動実績と2023年度の環境目標

環境方針からの項目	活動目的	2022年度目標	2022年度活動実績	評価	2023年度目標	
オカムラの 実践	1.ものづくりでの 環境保全活動	1-1.地球温暖化防止対策の推進 温室効果ガス排出量低減	温室効果ガス排出量低減:グループ全体で1,000t-CO ₂ /年の排出低減	温室効果ガス排出量 前年度比 2,042t-CO ₂ /年の排出低減	○	温室効果ガス排出量低減:グループ全体で1,000t-CO ₂ /年の排出低減
		燃料系エネルギー 使用量低減	<ul style="list-style-type: none"> 工業用燃料使用量 5年度平均 1%低減 (CO₂換算評価) 車両用燃料使用量 5年度平均 5%低減 (CO₂換算評価) 	<ul style="list-style-type: none"> 工業用燃料使用量 5年度平均比 11.2%低減 車両用燃料使用量 5年度平均比 16.5%低減 	○	<ul style="list-style-type: none"> 工業用燃料使用量 5年度平均 1%低減 (CO₂換算評価) 車両用燃料使用量 5年度平均 5%低減 (CO₂換算評価)
		エネルギー生産性向上	省エネ法対応によるエネルギーの効率利用 <ul style="list-style-type: none"> 生産系:社内完成高あたり 前年度比1.1%のエネルギー消費原単位低減 事務所系:総人員あたりのエネルギー消費原単位維持 物流:特定荷主と庫内作業で前年度比1%のCO₂排出原単位低減 	<ul style="list-style-type: none"> 生産系:エネルギー消費原単位前年度比 4.2%低減 事務所系:エネルギー消費原単位前年度比 4.0%低減 特定荷主責任によるCO₂排出量原単位前年度比 7.2%低減 庫内作業に関わるCO₂排出量原単位前年度比 7.6%増加 	○	省エネ法対応によるエネルギーの効率利用 <ul style="list-style-type: none"> 生産系:社内完成高あたり 前年度比1.1%のエネルギー消費原単位低減 事務所系:総人員あたりのエネルギー消費原単位維持 物流:特定荷主で前年度比1%のCO₂排出原単位低減
		1-2.省資源・廃棄物削減による 資源循環の推進	生産系廃棄物対策:社内完成高あたり 前年度比1%の排出量原単位低減	生産系廃棄物発生量原単位前年度比 4.1%低減	○	生産系廃棄物対策:社内完成高あたり 前年度比1%の排出量原単位低減
		施工・配送系廃棄物対策	施工・配送系廃棄物対策:ゼロエミッションと電子マニフェストの継続と対象範囲の拡大と集計	電子マニフェストの対象範囲の増加	○	施工・配送系廃棄物対策:ゼロエミッションと電子マニフェストの継続と対象範囲の拡大と評価
		1-3.環境影響度の低減	社内完成高あたり 前年度比1%のPRTR排出・移動量原単位低減	PRTR排出・移動量原単位前年度比 18.7%低減	○	社内完成高あたり 前年度比1%のPRTR排出・移動量原単位低減
	社内完成高あたり 前年度比1%の水資源使用量低減	水資源使用量原単位前年度比 14.4%低減	○	社内完成高あたり 前年度比1%の水資源使用量低減		
	1-4.製品開発における 環境配慮型企画と設計推進	製品開発率の向上 (GW・GW+開発製品管理)	企画時適用率の目標数値化と実績把握を継続	○	製品開発率の向上 (GW・GW+開発製品管理)	
		製品アセスメントの実施項目更新	製品要求に対して製品アセスメントを実施	○	製品アセスメントの実施率集計評価	
	2.社会に拡げる 環境活動	2-1.社会貢献活動の推進	ACORN活動の推進:自然環境保全への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> アフタンの森 生物多様性教育実施(5月、10月) 富士事業所内にビオトープ設置 	○	ACORN活動の実施と評価(1回以上/年)
学校での環境教育実施による社会貢献活動			環境出前授業の実施(13校)	○	学校での環境教育実施による社会貢献活動	
オカムラの 提案	3.顧客へ製品・ 空間の提案	3-1.環境配慮製品の提供と 空間プランニング推進	環境配慮製品の販売比率向上 (GW・GW+販売製品管理)	事業領域別の販売比率把握継続実施、オフィス系、海外営業本部で目標達成	○	環境配慮製品の販売比率向上 (GW・GW+販売製品管理)
		オフィス・店舗の環境提案率の向上	環境配慮製品の提案を継続実施	○	オフィス・店舗の環境提案率の向上	
		3-2.森林資源の持続可能な利用 の推進	木材利用方針に基づいた利用推進	FSC更新審査、不適合無し	○	木材利用方針に基づいた利用率集計
3-3.製品情報開示の推進	法や基準への適合情報や顧客ニーズへの対応	製品情報開示件数74件	○	法や基準への適合情報や顧客ニーズへの対応		